

令和7年  
2025年

11月5日  
水曜日

第11827号

# 食肉速報

— THE DAILY MEAT NEWS —

昭和51年5月19日  
第三種郵便物認可

購読料(前納)  
年間 82,080円  
(税込み)  
6か月 42,120円  
(税込み)

本紙は関連企業・団体との  
タイアップ企画記事を含みます

【発行所】株式会社食肉通信社  
<https://www.shokuniku.co.jp/>

東京支社  
〒101-0021 東京都千代田区外神田2-14-10  
TEL03-6206-0929 FAX03-6206-0928

大阪本社  
〒550-0005 大阪市西区西本町3-1-48  
TEL06-6538-5505 FAX06-6538-5510

九州支局  
〒812-0029 福岡市博多区古門戸町3-12  
TEL092-271-7816 FAX092-291-2995



10回目の節目迎えた「羊フェスタ」、今年も大盛況……P6

## 注目のヘッドライン

9月の牛肉輸出は前年比3・3%減、最大輸出先は台湾

…詳細はP2

令和7年秋の褒章・勲章  
旭日章に元沖縄ハム総合食品社長の長濱  
徳勝氏一農水省

…詳細はP3

- ▶ 9月の牛肉輸出は前年比3・3%減…………… P 2
- ▶ 令和7年秋の褒章・勲章旭日章に元沖縄ハム総合食品社長の長濱徳勝氏一農水省…………… P2
- ▶ 日本ハムが2026年3月期第2四半期連結業績を発表…………… P 3
- ▶ 第64回農林水産祭「実りのフェスティバル」開催、食肉関連団体も出展…………… P 3
- ▶ 伊藤ハム米久HDが2026年3月期第2四半期連結業績を発表…………… P 4
- ▶ 令和7年秋の叙勲、旭日章に元岩手県食肉生活衛生同業組合理事長の小井田幸一氏一厚労省……P4
- ▶ 新潟県胎内市の採卵鶏農場で鳥フル発生一農水省… P 4
- ▶ ハンガリーと米国で鳥フル、家禽肉等輸入一時停止…………… P 4
- ▶ プリマハム決算会見①、千葉社長「単体の業績は好調に推移」…………… P 5
- ▶ 10回目の節目迎えた「羊フェスタ」、今年も大盛況に…………… P 6
- ▶ 名古屋市場が「みなとミートフェスタ2025ー食肉市場まつりー」参加…… P 7
- ▶ [加工品仕向肉量・9月]国産、輸入の合計数量は3万5098tで0・5%減…… P 7
- ▶ 日本の視察団がEU乾燥脱水飼料作物を視察…P8
- ▶ イオンスタイル伊丹が畜産コーナーを一新し「ミートパーク」としてオープン6つのゾーンに展開し、“焼き材”を訴求…………… P 8～9
- ▶ 宮本むなし「白湯仕立ての鶏しょうが鍋定食」を期間限定で開始…………… P 9
- ▶ [東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数]4日……P10
- ▶ [各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場]4日…P11

食の感動体験を創造することで  
世界中の人々と食をつなぎ続ける



<https://www.starzen.co.jp/>



<https://www.sfoods.co.jp/>

## 9月の牛肉輸出は前年比3・3%減、最大輸出先は台湾

財務省貿易統計によると9月の国産牛肉輸出量は891t(前年同月比3・3%減)と、前年同月を下回り、前月比では3・3%増加した。輸出先国は合計35カ国・地域で、国別にみると台湾が最も多く251t。次いで、香港、米国、タイ、シンガポール、マレーシア、カンボジアと続く。

表記以外のその他の国はオランダ、ベトナム、英

国、アラブ首長国連邦、イアリアなど。9月分輸出額は53億4393万円(4・0%減)となり、キロ当たりの輸出単価は6001円。

輸出内訳は冷蔵487t(28・7%増)、冷凍403t(25・7%減)。金額ベースは冷蔵が前年比28・6%増、冷凍が30・8%減。

2025年9月の牛肉輸出状況

単位:kg、円、%

	香港	米国	カナダ	カンボジア	マカオ	シンガポール	タイ	台湾	その他国	合計
	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計		
2024年計	1,457,988	2,138,636	95,635	901,317	199,869	545,818	711,601	2,094,296	1,967,917	10,113,077
前年比	95.9%	187.2%	108.9%	79.6%	140.6%	100.3%	150.0%	123.8%	116.8%	120.1%
2024年9月	148,383	159,276	5,669	82,831	14,282	41,270	100,588	180,022	188,821	921,142
10月	134,727	139,379	13,220	34,092	25,847	45,898	64,294	162,626	189,009	809,092
11月	172,858	151,958	7,838	88,228	22,207	56,168	85,096	173,067	173,693	931,113
12月	152,180	761,518	8,626	184,950	23,980	71,045	60,650	256,098	247,758	1,766,805
2025年1月	88,177	183,936	6,208	63,914	22,094	24,068	65,415	83,921	100,038	637,771
2月	124,384	90,621	8,811	84,846	5,452	43,563	50,149	192,993	148,769	749,588
3月	139,718	117,362	5,027	140,332	14,716	40,858	87,715	221,768	207,745	975,241
4月	149,618	94,974	10,099	117,592	18,538	48,917	71,980	249,251	198,397	959,366
5月	124,882	160,725	9,875	75,995	6,676	41,599	64,255	200,227	167,612	851,846
6月	126,305	208,134	8,152	49,374	13,772	51,971	64,290	222,475	221,462	965,935
7月	176,738	161,585	14,004	91,852	7,280	44,714	83,078	190,320	202,795	972,366
8月	141,502	135,053	4,115	42,608	15,235	40,765	47,251	222,446	213,355	862,330
9月	174,548	128,592	9,561	15,544	8,000	48,003	53,409	251,313	201,553	890,523
前年同月比	117.6%	80.7%	168.7%	18.8%	56.0%	116.3%	53.1%	139.6%	106.7%	96.7%
kg単価(円)	4,892	6,608	8,821	6,512	6,735	6,726	4,730	5,085	7,678	6,001
2025年累計	1,245,872	1,280,982	75,852	682,057	111,763	384,458	587,542	1,834,714	1,661,726	7,864,966
前年同期比	124.8%	118.0%	115.0%	114.8%	87.4%	103.2%	117.1%	122.1%	122.4%	119.1%

## 令和7年秋の褒章・勲章

### 旭日章に元沖縄ハム総合食品社長の長濱徳勝氏一農水省

農水省はこのほど、令和7年秋の褒章および勲章を発表した。本紙関係の受章者、功績概要は次のとおり。

[黄綬褒章] 森繁夫(現 森家畜AIサービス代表、業務精励〈畜産業〉、73歳) [藍綬褒章] 近藤正樹(元(株)日本フードサービス協会会長、外食産業振興功績、70歳)

[旭日双光章] 長濱徳勝(元 沖縄ハム総合食品(株)社長、元 日本ハム・ソーセージ工業協同組合沖縄支部支部長、畜産物加工業振興功績、75歳)

[瑞宝重光章] 奥原正明(元 農林水産事務次官、

農林水産業事務功績、70歳) [瑞宝中綬章] 高橋博(元 消費・安全局長、農林水産行政事務功績、71歳)▷矢野秀雄(元(独)家畜改良センター理事長、京都大学名誉教授、農林水産業務功績、82歳) [瑞宝小綬章] 境政人(元 消費・安全局消費・安全政策課長、農林水産行政事務功績、71歳)▷藤岡豊陽(元 家畜改良センター十勝牧場、農林水産行政事務功績、71歳) [瑞宝単光章] 伊藤英之(元(独)家畜改良センター鳥取牧場飼料課総括作業長、農林水産業務功績、70歳)

## 日本ハムが2026年3月期第2四半期連結業績を発表

日本ハムは4日、2026年3月期第2四半期連結業績を発表した。

それによると、累計売上高は7225億9900万円(前年同期比5・7%増)、事業利益363億4100万円(34・1%増)、税引前中間利益382億7300万円(32・6%増)、中間利益256億5100万円(30・0%増)、親会社の所有者に帰属する中間利益231億8800万円(29・8%増)、中間包括利益合計額307億6700万円(92・0%増)で増収増益だった。

セグメント別の概況は次の通り。

[加工事業本部] 売上高は、前連結会計年度に取得した北米子会社の製造数量が寄与したものの、低収益商品の削減などを目的とした戦略的な商品統廃合を進めたことにより、対前年同期比2.3%減の2582億4100万円となった。事業利益は、北米における鶏肉加工品原料価格の高騰および稼働率低下に伴う製造経費の高止まりが影響し、52.7%減の21億7千万円となった。

[食肉事業本部] 売上高は、国産鶏肉の単価上昇に加えて、豪州牛肉事業における販売環境の改善やフィードロット拡大による生産頭数増加などにより、対前年同期比5.9%増の5067億1200万円となった。事業利益は、国産鶏肉および豪州牛肉の単価上昇により利益確保が進んだこと等から、対前年同期比53.0%増の276億1500万円となった。

[ボールパーク事業] チーム成績の好調に加え、各種イベントの実施および新たな飲食商業施設のオープンなどにより、「北海道ボールパークFビレッジ」の来場者数が堅調に推移し、チケット・グッズ・飲食収入が増加したことから、売上高は対前年同期比16.5%増の228億4千万円、事業利益は対前年同28.9%増の90億6700万円となった。

なお、¥中間連結会計期間の業績を踏まえ、通期の連結業績は1兆4300億円(4・3%増)、事業利益590億円(38・7%増)、税引前当期利益500億円(34・4%増)、340億円(27・9%増)を見込む。

## 第64回農林水産祭「実りのフェスティバル」開催、食肉関連団体も出展

農水省および公益財団法人日本農林漁業振興会は10月31日および11月1日の2日間、東京都豊島区のサンシャインシティ ワールドインポートマートビルで第64回農林水産祭「実りのフェスティバル」を開催した。このイベントは、農林水産業と食に対する国民一般の理解増進と農林水産物の消費拡大などに資することを目的とするもの。都道府県、農林水産関係団体、経済関係団体・企業の協賛の下で実施された。

食肉関連団体も多く出展しており、入場無料の同イベントには多くの消費者らが足を運び、各ブースに立ち寄った。そのうち全国食肉事業協同組合連合会のブースでは、和牛肉の試食の際に来場者の長い列が作られた。さらにパネル展示やクイズラリー、冊子などの資料配布を通じ、食肉の生産から販売までの過程に関する幅広い知識を普及した。

全国食肉生活衛生同業組合連合会は、いまだに払拭し切れていない風評被害と戦う福島県産牛肉・

豚肉の試食を行い、同県産食肉の安全性をアピール。さらに、試食に使われた牛肉の個体識別番号と検索用のQRコードを掲示して、牛トレーサビリティ制度や食肉の衛生管理に対する理解醸成を図った。

公益財団法人日本食肉消費総合センターは、和牛肉需要拡大緊急対策事業の一環で、「おいしさ満点! 和牛フェア〜おいしくて、栄養豊富な和牛を食べよう!」と題して、近江牛の試食提供を実施。和牛肉に関するパネル展示、動画の放映、リーフレットの配布も行われ、来場者は日本が誇る和牛肉のおいしさや栄養的価値を体感しながら学んだ。

また、公益財団法人日本畜産副産物協会も出展し、ホルモン焼きの試食を行った他、モツやホルモンのことを消費者に広く浸透させるための料理レシピを宣伝。パンフレットの配布でも牛・豚の副生物に関する情報を提供した。

## 伊藤ハム米久HDが2026年3月期第2四半期連結業績を発表

伊藤ハム米久ホールディングスは4日、2026年3月期第2四半期連結業績を発表した。

それによると、累計売上高は5423億6200万円(前年同期比10・5%増)、営業利益131億5千万円(49・3%増)、経常利益136億3600万円(50・9%増)、親会社株主に帰属する中間純利益95億800万円(51・8%増)で増収増益だった。

セグメント別の概況は次の通り。

[加工食品事業] ハム・ソーセージは、人気アニメ映画と連動した大型キャンペーンの実施など、家庭用主力商品のブランド力強化を推進し、調理加工食品は、消費者ニーズの多様化に対応した商品群の販売に努めた。消費者需要の低迷を受けて販売数量は減少したが、販売単価の改善などにより、加工食品事業の売上高は1986億2400万円(0・6%増)と増加した。商品新陳代謝の推進やコスト削減などの取り組みによる効果が、原材料費、光熱費および物流単価の上昇の影響などをカバーし、加工食品事業の経常利益は38億8800

万円(0・3%減)と前年同水準となった。

[食肉事業] 国内事業は、国産鶏肉の相場上昇による生産事業の収益性改善に加え、国産豚肉のリスク管理強化による。採算性改善などが、物流単価上昇の影響等をカバーしたことから、売上高、経常利益共に増加した。海外事業は、アンズコフーズ社において、決算期変更の影響に加え、北米向け牛肉販売および欧州向け羊肉販売の収益性が改善したことから、売上高、経常利益共に増加した。

これらの結果、食肉事業全体でも売上高3437億3200万円(17・1%増)、経常利益104億8千万円(78・2%増)と増収増益となった。

なお、中間連結会計期間の業績を踏まえ、通期の連結業績は売上高1兆500億円(6・2%増、前回予想1兆300億円)、営業利益270億円(37・9%増、265億円)、経常利益280億円(34・9%増、275億円)、親会社株主に帰属する当期純利益180億円(37・4%増、175億円)を見込む。

## 令和7年秋の叙勲、旭日章に元岩手県食肉生活衛生同業組合理事長の小井田幸一氏一厚労省

厚労省はこのほど、令和7年秋の叙勲を発表した。本紙関係の受賞者、功績概要は次の通り。

[旭日双光章] 小井田幸一(元 岩手県食肉生活衛生同業組合理事長、生活衛生功勞、85歳)

## 新潟県胎内市の採卵鶏農場で鳥フル発生一農水省

農水省は4日、新潟県胎内市の家禽農場で、今シーズン国内3例目となる高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜が確認されたことを発表した。これを

受け、同農場の採卵鶏、約63万羽の殺処分が行われる。

## ハンガリーと米国で鳥フル、家禽肉等輸入一時停止

農水省動物検疫所は10月30日、ハンガリーおよび米国の家禽飼養施設において高病原性鳥インフルエンザの発生が確認されたことから、次の地域から輸出される生きた家禽、家禽肉等については、輸入一

時を停止したと発表した。・ハンガリーヤース・ナジクン・ソルノク県、ペシュト県及びバーチ・キシクン県(輸入停止措置日:10月30日)  
・米国ミシガン州オタワ郡(10月9日)

## プリマハム決算会見①、千葉社長「単体の業績は好調に推移」

プリマハムは10月31日、同日発表した2026年3月期中間決算会見を東京都品川区の本社で開催。会見には千葉尚登社長(写真)、新川裕二専務執行役員営業本部長、田悟敏弘専務執行役員生産本部長、網野真専務執行役員食肉事業本部長、鯛健一常務執行役員総合企画本部長、中島聡常務執行役員管理本部長らが出席した。概要は次の通り。

【千葉社長】上期は、プリマハム単体では売上高1747億円と前年上期から96億円増、営業利益45億円と17億円増となった。一方、連結では売上高2361億円と、単体売上高との差額が600億円強あり、そのうち約500億円をベンダー小会社が占める。商品別売上高をみると、総菜(ベンダー子会社)を除き、すべて前年を上回った。ベンダー子会社であるプライムデリカの売上高は前年比45億円減、営業損益は5億円と前年から22億円減であり、大きなインパクトとなった。単体の業績さが示すとおり、ハム・ソーセージやハンバーグなどの商品は収益面を含めて好調だが、大手CVS向けのベンダー事業が売上高、利益ともに苦戦。全体の営業利益は前年比13億円減、加工食品事業部門も13億円減。食肉事業部門やその他はほぼ前年並みである。全体のマイナスにプライムデリカの22億円も含まれており、それを除けばプラス。全体の売上高は増収、利益は減益だが、プライムデリカを除けば増益であり、全体が悪化したわけではなく、プライムデリカの苦戦に尽きるともいえる。また、前年から価格改定でプラス24億円の効果があった一方、コストアップがマイナス15億円。収益改善とコストアップの対比では、ここ数年で初めてプラスに転じた。ただ、直近また円安傾向になっていることは懸念材料だ。

ハム・ソーセージの販売数量は、コンシューマー商品は前年比101%だが、業務用やギフトは前年に届いておらず、合計ではほぼ増減なし。コンシューマー商品では引き続き「香薫」が非常に好調であり、前年比111%、ウイナー全体でも109%。ただ、ロースハム、ベーコンはやや不調なので、下期は巻き返しが必要だ。加工食品全体でも105%、コンシューマー商品ではミートボールやサラダチキンが好調。また、「ギルティソーセージ」や「紅ショウガソーセージ」も話題

になるなど、取扱量は増えているが、「香薫」の目線でみたらまだまだボリュームは足りないの、下期はもっと攻めたい。

なお、SCIデータのシェアは引き続き全国トップであり、他社との差はやや開きつつある。エリア別でみると、関西と東海はまだ2位だが、ここでもトップとの差を少しずつ詰めている。

生産部門については、生産効率改善や新商品開発、あるいはラインの見直しなど、以前から行っていることを今後も継続的に進めていく。

食肉事業部門は収益性を上げるために一時販売数量をかなり絞っていたが、今は販売量を増やすことでチャンスをつかむ方針に変更した。相場要因もあると思うが、単体の営業利益は前年比5億円増となった。一方、出荷頭数が減少したことから、養豚事業はなかなか収益が上がらず、5億円減。合計では前年並みとなった。畜種別にみると、牛、豚、鶏、それぞれ10ポイントの伸びとなっている一方、出荷頭数は前年比92%。今後の課題としてテコ入れしていきたい。

通期予想は、5月の公表から全体では変わらない。ただ、加工食品部門については、プライムデリカの回復がまだ不透明な部分もあり、現時点での見通しを前提に一部見直した。また、プリマネクストプロジェクト(PNP)の稼働が来年度に延期したため、今期予定していた費用は発生しない。逆に食肉事業部門では、PNP稼働によるプラスをみていた分、それがちょうど相殺され、全体の予想値は変わらない。

下期は、ハム・ソーセージ部門での収益が第2四半期と同様に第3、第4も上げていくことができれば、PNPの費用が発生しないこともあり、当初予想を上回る可能性がある。さらにプライムデリカの収益をどう高めていくかについても取引先とも協議している。例えば新商品の開発など、新しいことも考えていく必要がある。(連載続く)



## 10回目の節目迎えた「羊フェスタ」、今年も大盛況に

羊を愛する消費者集団である羊齧協会(菊池一弘代表)などで構成される、羊フェスタ2025 in なかのアンテナストリート実行委員会は1~2日にかけて、日本最大級の羊文化イベント「羊フェスタ2025 in なかのアンテナストリート」を中野セントラルパーク(東京都中野区)で開催した。今年で10回目の節目を迎えた今回は、「羊をもっと自由に、もっと身近に」をテーマに、初心者でも楽しめる体験型コンテンツや羊毛、羊革など食以外の魅力も紹介。さらに国内外の多彩な羊料理を集め、国、地域、宗教を超えた“羊の多様性”を味わえる内容となった。

オーギー・ラムPR大使ラムバサダーのブースでは、ラムバサダー考案のオリジナルソースで仕上げたマトンチョップを2日間合計で8種類発売(上写真)。羊フェスタの名物でもある同ブースのラムチョップを、今年もあえてマトンチョップで提供。今回も開始時間前から行列ができる人気ぶりとなった。MLAの三橋一法フードサービス・シニアマネージャーは「他のブースでラムチョップを提供する店舗もあり、バリエーションを広げて羊フェスタを盛り上げたいという思いから、今回はマトンチョップにした。適度にサシが入り肉の味が濃く、ソースとの相性も抜群で非常においしい」とPR。「今回はビクトリア州政府の協力もいただいている。羊フェスタも10回目だが、さまざまな産地の羊肉が楽しめるイベントとなっている。羊肉市場の裾野を広げていくことがラムバサダープログラムの目的でもあり、さまざまな羊肉を食べる機会を増やすことは素晴らしいことだ」と強調した。

豪州最大のラム肉生産企業のブランドである「トーマスファームズ・ラム」は、神奈川県キッチンカー「ラムズ」と連携し、「特上ラム肉のカットステーキ」を販売。くせがなく、食べやすいラム肉を豪快にカットし、ジューシーな肉感が味わえるシンプルかつワイルドな一品で提供し、好評だった。北海道遺産ジンギスカン応援隊のブースでは、「味付ジンギスカン」の食べ比べセットを販売。「味付ジンギスカングランプリ2025」グランプリのHEY MEAT「厚切りマトン味付けジンギスカン」と「ラムタン」、同じくジンギスカン応援隊賞の大雪ジンギスカン雪ノ下「オリジナルジンギスカン」と「羊のサガリ」のセットを提供した。



米国食肉輸出連合会(USMEF)のブースでは、アメリカンラムのバラを特製タレと絡め、もやしと共に炒めた「ラム肉ジンギスカン炒め」を無料で試食提供(下写真)。日本では希少なアメリカンラムを食べる機会であり、今年も大勢が列を作った。笠谷樹マーケティング・ディレクターは羊フェスタについて「とても活気があり、テーマがはっきりしているイベントなのでPRするのに非常に良い機会。アメリカンラムの数量自体は多くないが、そのおいしさや希少性について、来場者の方々に少しでも理解していただければうれしい」と話した。

アイスランドラム協会はアイスラインラムの焼きラムソーセージやラムガットマト煮など、またウェールズラム(HCC) SHIMAWITH トップトレーディング(株)のブースでは、ウェールズ産ラム肉の発酵ソース添え、ウェールズ産ラム肉の米粉タコスなど、それぞれバラエティ豊かなメニューを提供。初出店の「西麻布羊串」のブースでは、「世界の羊肉食べ比べ」と題し、米国(Tボーン)、ウェールズ(ショルダー・ロース)、豪州(ラム・レッグ)、アイスランド(ショルダー)をシンプルに焼き上げて提供。行列が絶えない人気ぶりだった。

## 名古屋市場が「みなとミートフェスタ2025ー食肉市場まつりー」参加

名古屋食肉市場(株)と公益(社)日本食肉市場卸売協会は3日、名古屋市港区の名古屋港ガーデンふ頭で開催された「みなとミートフェスタ2025ー食肉市場まつりー」(後援=農林水産省畜産局、公益社団法人日本食肉協議会)に参加した。

ブースではリーフレットや冊子の配布、ポスター展示、DVD放映など情報発信を行った他、地元銘柄食肉の「みかわ牛」のすき焼き用、「愛知県産豚肉ぶたミン」のしゃぶしゃぶ用それぞれ350gを用意。アンケートに答えてくじ引きを行い、当選者には後日配送を行うというプレゼントキャンペーンを実施した。

これまで市場で行われていた「愛知名港花き地方卸売市場祭り」とは異なる場所での開催となったため、試食はなく、SDGsを意識した食育がメインの



テーマに。認知度はまだまだ改善の余地がある中で実施されたが、好天にも恵まれた他、港では海上ヘリや船の放水ショーが行われ、イベント性の高い祭りとなり、昼過ぎには全ての景品が当選済みとなるなど盛況を博した。

## 【加工品仕向肉量・9月】

### 国産、輸入の合計数量は3万5098 tで0・5%減

日本ハム・ソーセージ工業協同組合がまとめた9月の加工品仕向肉量によると、国産と輸入を合わせた合計数量は3万5098t(前年同月比0・5%減)となった。このうち国内物が9357t(0・8%増)と増加し、輸入物は2万5741t(1・0%減)と減少している。25年累計は30万3520t(1・3%減)。このうち国内物は8万4737t(1・3%増)、輸入物は21万8783t(2・3%減)で推移している。

畜種別にみると、豚肉は国内物が5452t(1・2%減)、輸入物が2万3492t(1・5%減)、合計2万8944t(1・4%減)で前年を下回った。

また、鶏肉は国内物が3718t(2・9%増)と増加し、輸入物も1179t(22・4%増)と増加、合計では4897t(7・0%増)と前年を上回った。成牛肉は1230t(7・0%減)で、国内物が184t(25・7%増)、輸入物が1045t(11・1%減)となった。

シーズンドポークなどを含む豚肉調製品は8873t(3・5%減)となっている。

2025年9月分の食肉加工品仕向肉量 (単位:t%)

区分	仕向肉量	対前年同月比	2025年累計	対前年同期比	
豚 肉	国内物	5,451.8	98.8	50,324.5	101.9
	輸入物	23,491.8	98.5	201,954.6	97.9
	合 計	28,943.6	98.6	252,279.1	98.7
成牛肉	国内物	184.3	125.7	1,174.3	109.9
	輸入物	1,045.3	88.9	8,338.9	89.4
	合 計	1,229.6	93.0	9,513.2	91.5
子牛肉	国内物	0.0	0.0	0.0	0.0
	輸入物	0.6	85.7	6.1	84.7
	合 計	0.6	75.0	6.1	83.6
馬 肉	国内物	2.0	66.7	26.0	94.5
	輸入物	6.5	125.0	52.9	110.7
	合 計	8.5	103.7	78.9	104.8
綿羊肉	国内物	0.0	0.0	0.3	0.0
	輸入物	18.1	109.0	161.2	103.5
	合 計	18.1	109.0	161.5	103.7
山羊肉	国内物	0.0	0.0	0.0	0.0
	輸入物	0.0	0.0	2.1	75.0
	合 計	0.0	0.0	2.1	75.0
鶏 肉	国内物	3,718.4	102.9	33,211.8	100.2
	輸入物	1,178.9	122.4	8,266.9	102.2
	合 計	4,897.3	107.0	41,478.7	100.6
合 計	国内物	9,356.5	100.8	84,736.9	101.3
	輸入物	25,741.2	99.0	218,782.7	97.7
	合 計	35,097.7	99.5	303,519.6	98.7
うさぎ肉	国内物	0.0	0.0	0.0	0.0
	輸入物	0.0	0.0	0.0	0.0
	合 計	0.0	0.0	0.0	0.0
魚 肉	国内物	1.2	75.0	10.9	82.6
	輸入物	15.2	116.0	108.2	103.5
	合 計	16.4	111.6	119.1	101.2
【参考】					
豚肉調製品	8,873.1	96.5	80,059.3	96.4	
シーズンドポーク	8,866.2	96.4	79,998.2	96.4	

注) 1. 仕向肉量は食肉加工工場より報告された数量である。  
資料: 日本ハム・ソーセージ工業協同組合調べ「食肉加工品等流通調査」  
(公益社団法人日本食肉協議会委託事業)

## 日本の視察団が EU 乾燥脱水飼料作物を視察

日本の乳業・畜産分野を代表する専門家9名が、EU乾燥脱水飼料作物について直接学ぶためイタリアとスペインを1週間にわたり視察した。今回の訪問は、スペイン乾燥脱水アルファルファ製造者協会(AEFA)とイタリアの乾燥脱水飼料作物生産者の共同体(FILIERA社FILIERA-FILIERA ITALIANA FORAGGI SOC. CONSORTILE A R.L.)が共同で推進する本キャンペーン「自然な栄養をヨーロッパの大地からコップへ」の一環として実施された。

5日間にわたる行程では、イタリアのラヴェンナ、フェラーラ、ペザロ・タリオ・ディ・ポー地域、スペインのサラゴサ、ウエスカ(アラゴン州)、リエイダ(カタルーニャ州)において乾燥脱水施設や飼料畑を視察。参加者は栽培・収穫から乾燥脱水、パッケージング、保管に至るプロセス全体について学び、また製品ラインナップ(アルファルファ、ライグラス、オートヘイなど)や形態(ベール、ペレット、キューブ)についても調査。EU飼料作物の乾燥脱水技術の基盤となる品質基準と長年培われてきた飼料栽培を支える環境についても知見を深めた。

また、今回のプログラムでは、ラヴェンナとサラゴサでの商談会も開催された。イタリア、スペインの飼料産業から主要企業が一堂に会し、日欧の専門家同士が技術面で情報交換を行い、企業間交流の機会となった。

世界最大の飼料輸入国である日本は、高品質飼料の安定供給源への関心を高めている。EU飼料は持続可能でトレーサビリティが確保され、栄養価に富むため、家畜の健康・生産性・農場の効率性を支え、日本の酪農産業において重要な役割を果たすことが期待される。

同キャンペーンは2026年も日本国内でセミナーや農場でのワークショップを継続し、EU生産者と日本の関係者の連携の強化、日本国内の酪農・畜産業向けに高品質で持続可能な飼料の普及を推進する予定。キャンペーンのウェブサイト(www.eufodder.com)では商品紹介や、動画、今後の活動に関するニュースに加え、製品仕様、生産、輸出、価格推移など最も関連性の高い情報を四半期ごとに更新するニュースレターなど、さまざまな資料が日本語で利用可能となっている。

## イオンスタイル伊丹が畜産コーナーを一新し「ミートパーク」としてオープン 6つのゾーンに展開し、“焼き材”を訴求

イオンリテールは10月30日、兵庫県伊丹市のイオンスタイルをリニューアルオープン。それに伴い、畜産コーナーを一新し、最新の精肉売り場「ミートパーク」としてオープンした。「ミートパーク」は“お肉のテーマパーク”をコンセプトにした同社の新モデルの畜産売り場。元々、6月にイオンスタイル鶴見緑地で実験的にスタートさせ、検証を行っており、今回のイオンスタイル伊丹店がミートパークとして「1号店」となる。

売り場はリニューアル前から1.7倍拡充。特長は大きく6つのコンセプトごとにゾーン展開していること。食肉の調理法の中でも最も用途が多い“焼き材”にフォーカスしており「ステーキ」「焼き肉」「トンテキ」「焼き鳥」を軸に展開。



また、近年の物価高から需要が上がっている大容量パックのアイテムを多く揃えた「ドカ盛り」、味付け肉や炒めるだけの半加工品の商材を充実させた「簡便調理」コーナーなど、ニーズの高いカテゴリに区分

して売り場を展開する。

そのほかにも、これまで他企業がテナントとして入っていた対面販売については、直営で運営することで、より顧客の要望に添ったサービス提供を可能にした。

同社食品本部の釘持彰畜産商品部長は「今は、(原料高で)豚肉が消費の受け皿。そのため、(ミートパーク実験店舗である)鶴見緑地店でも改装前より大きく伸びたトンテキを特に大きく展開している。通常店舗は店内加工の比率は20~30%程度でプロセスセンター中心の供給体制だが、“ミートパーク”は50%まで上げた。対面の直営なども含め、(こうした試みは)非常に手間やコストもかかるが、次の世代に(食肉加工)技術を継承していくための役割も担う旗艦店にしたい」と話す。

実際、畜産売り場の入り口の平台に、大容量のトンテキを多く並べており、特に目を引く構成となっている。また、牛肉については一部内臓商品を除けば、ほぼ和牛中心の品揃え。オープン初日には、黒毛和牛の各部位合計1kgを詰め合わせた“お楽しみ袋”を5千円(先着200個限定)で販売。そのほかにも、和牛モモステーキ(598円)、和牛カタローススライス(598円)、和牛バラ焼き肉用(598円)などの特価商品を販売し、好評を得た。

現在、イオンリテールは4エリアに区分したカンパ



ニー体制(事業部制)を採用しており、同社では、こうしたミートパークを1カンパニーに1店舗作っていく予定だという。逆に言えば、ミートパークは、あくまでも「コンセプトショップ」であり、全店に水平展開することは効率や人材の観点からも難しいそうだ。

イオンスタイル伊丹の周辺は、今年に入ってから、オーケーがドミナント展開を進めており、関西圏でも一際、競争激化が著しいエリア。今回の畜産コーナーの大規模なテコ入れとも言えるべきリニューアルもそうした背景があると考えられる。

「肉を買おうと思ったら、ミートパークのイメージを持ってもらい、他のイオンのお店にも来店いただきたい」と釘持部長。最需要期である年末商戦には、和牛の売り場を大きく広げ、しっかりと訴求して、ハレの日需要を取り込みたいとのことだ。

## 宮本むなし「白湯仕立ての鶏しょうが鍋定食」を期間限定で開始

M&Sフードサービス(株)(大阪市、岡本俊亮社長)が運営する定食チェーン「定食屋 宮本むなし」では、2025年5日から、「白湯仕立ての鶏しょうが鍋定食」(税込み1160円)を期間限定で販売する。しょうがでカラダが温まる、ホッとするおいしさが楽しめる。

あわせて5日~18日の期間に「宮本むなし公式Xフォロー&リポストキャンペーン」を実施。同店の公式Xアカウントをフォローし、キャンペーン投稿をリポストすることで期間中毎日応募でき、その場での抽選でAmazonギフトカード3千円分が3人に、500円分のデジタルお食事券が50人に当たるキャンペーンと



なっている。

# 東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数

[東京食肉卸売市場] 11月4日  
枝肉卸売価格(瑕疵除く)(頭、1kg当たり円、税込み)

◇牛生体		5	4	3	2	1	
和牛	雌 A 166頭	高値	5,403	2,866	-	-	-
		安値	2,271	2,226	-	-	-
		平均	3,082	2,477	2,144	-	-
	雌 B 1頭	高値	-	-	-	-	-
		安値	-	-	-	-	-
		平均	2,809	-	-	-	-
	去 A 111頭	高値	3,026	2,416	-	-	-
		安値	2,230	2,163	-	-	-
		平均	2,555	2,364	-	-	-
	去 B -頭	高値	-	-	-	-	-
		安値	-	-	-	-	-
		平均	-	-	-	-	-
乳牛	雌 B -頭	平均	-	-	-	-	
	雌 C -頭	平均	-	-	-	-	
	去 B 5頭	平均	-	-	1,237	-	
	去 C 6頭	平均	-	-	1,227	-	
交雑牛	雌 B 20頭	平均	-	1,733	1,636	1,553	
		頭数	-	5	12	3	
	雌 C 5頭	平均	-	-	1,536	1,492	
		頭数	-	-	2	3	
去 B 20頭	平均	-	1,630	1,639	-		
	頭数	-	9	11	-		
去 C 4頭	平均	-	-	1,434	1,517		
	頭数	-	-	2	2		

	牛	豚	搬入牛	搬入豚		その他
と畜 売買	429 425	1,048 938	- 195.5	(競り)	(相対)	- 74
				-	18	

◇牛搬入		5	4	3	2	1
和 雌 A	高値	2,382	1,931	1,690	1,582	-
	安値	-	-	1,524	1,593	1,325
和 去 A	高値	2,453	2,260	1,801	-	-
	安値	-	-	1,897	1,582	-
乳 雌 B	高値	-	-	-	1,142	1,044
	安値	-	-	-	1,061	978
乳 去 B	高値	-	-	-	-	-
	安値	-	-	-	-	1,077
交 雌 B	高値	-	1,794	1,582	1,436	-
	安値	-	-	-	1,459	-
交 去 B	高値	-	1,676	1,654	1,537	-
	安値	-	1,605	-	-	-

◇豚		[極上]	[上]	[中]	[並]	[等外]
生体	高値	633	853	912	886	832
	安値	594	572	508	421	270
	平均	609	594	579	531	477
	頭数	( 7)	( 374)	( 302)	( 136)	( 119)
搬入 競り	高値	-	-	-	-	-
	安値	-	-	-	-	-
	平均	-	-	-	-	-
搬入 相対	高値	-	-	623	612	558
	安値	-	-	623	607	529
	平均	-	-	623	611	534
	頭数	( -)	( -)	( 3)	( 4)	( 11)

[大阪食肉卸売市場] 11月4日  
枝肉卸売価格(生体)(1kg当たり円、税込み) [ ]は豚規格

	5[極上]	4[上]	3[中]	2[並]	1[等外]
和 雌 A	2,388	2,292	-	-	-
(頭数)	( 9)	( 4)	( -)	( -)	( -)
B	-	-	-	-	-
(頭数)	( -)	( -)	( -)	( -)	( -)
和 去 A	2,468	2,166	-	-	-
(頭数)	( 28)	( 9)	( -)	( -)	( -)
B	1,994	2,182	-	-	-
(頭数)	( 2)	( 1)	( -)	( -)	( -)
乳 去 B	-	-	-	-	-
交雑雌 B	-	-	-	-	-
C	-	-	-	1,460	-
交雑去 B	1,890	1,740	1,612	1,466	-
C	-	1,621	-	1,443	-
豚	634	629	583	540	487

[全国と畜概算頭数]  
農水省統計部発表 (頭)

	11月4日	10月31日	(11月累計)
豚	73,000	67,900	73,000
成牛計	5,160	4,260	5,160
和牛雌	1,350	1,050	1,350
和牛去勢	1,550	990	1,550
乳牛雌	730	810	730
乳牛去勢	460	300	460
交雑雌	470	510	470
交雑去	600	600	600

[去勢牛B3・2規格 枝肉取引価格] 11月4日

	1,572円	(前日 1,656円)
東京		
大阪	1,551円	(前日 1,552円)

[豚・全農建値] 11月4日

上	中	取引頭数	市況
605円	584円	1,192頭	急落

と畜 売買	牛	豚	牛概況	豚概況	もちあい
	93頭	128頭			
	84頭	186頭			続伸

# 各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場

[主要市場豚枝肉卸売価格] 11月4日 (1kg当たり円、税込み)

	上加重 (前日)	中加重 (前日)	と畜	上場	市況
北海道 [セ]	572 (572)	- (-)	5,970	-	もちあい
仙台 [中]	603 (585)	516 (494)	689	114	続伸
栃木 [地]	- (588)	- (540)	-	-	休市
茨城 [地]	611 (598)	574 (570)	1,284	710	上伸
群馬 [地]	580 (630)	501 (555)	2,838	302	反落
さいたま [中]	600 (622)	583 (608)	296	307	反落
東京 [中]	594 (617)	579 (584)	1,048	938	急反落
横浜 [中]	621 (613)	591 (579)	688	654	続伸
山梨 [地]	701 (-)	685 (-)	165	88	上伸
浜松 [地]	- (-)	- (-)	-	-	競り休止
名古屋 [中]	583 (574)	575 (554)	1,000	267	強もちあい
京都 [中]	624 (572)	612 (581)	107	77	もちあい
大阪 [中]	629 (593)	583 (566)	128	175	続伸
神戸 [中]	- (516)	- (516)	132	-	上場なし
岡山 [地]	619 (609)	606 (630)	382	396	強気配
広島 [中]	583 (580)	549 (546)	358	156	もちあい
福岡 [中]	593 (573)	554 (532)	595	102	続伸

注：北海道はホクレン大卸売価格で、前日の全道と畜頭数。京都の前日は1日。栃木と茨城は3日。

[日本食肉流通センター] 10月28日～11月3日  
豚カット肉 [I] (1kg当たり円、税込み、重量kg)

[食鳥正肉日経相場] 10月31日  
荷受売値平均値 (kg当たり円、税抜き)

◇首都圏 総重量 1,395,308 kg

◇東京 (8社)

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,147	1,191	1,200	1,183	88,102
うで	739	792	842	794	106,282
ロース	1,054	1,113	1,185	1,125	140,636
ばら	1,179	1,260	1,339	1,244	154,971
もも	721	760	810	767	155,313
ヒレ	1,095	1,163	1,163	1,143	16,300
セット	867	1,031	1,093	998	733,704

	安値	加重平均	高値	販売量 (t)
モモ	635	729	931	253
ムネ	494	558	692	187

◇大阪 (2社)

	安値	加重平均	高値	販売量 (t)
モモ	650	739	1,030	4
ムネ	494	534	629	3

◇近畿圏 総重量 717,339 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,134	1,247	1,341	1,248	62,305
うで	648	707	810	733	113,457
ロース	1,030	1,122	1,273	1,143	105,690
ばら	1,253	1,286	1,350	1,287	137,836
もも	680	735	845	744	160,081
ヒレ	1,118	1,274	1,344	1,257	10,939
セット	828	962	1,093	969	127,031

[農水省統計情報部食鳥市況] 10月31日  
kg当たり円、税抜き

	モモ肉	ムネ肉	手羽モ	手羽サ	ササミ
高値	960	779	550	600	650
安値	642	487	290	360	350
平均	725	572	-	-	-

※日本食肉流通センター：①数値はすべて記載日中間（1週間分）に収集した累積データをもとに算定しており、直近1週間の状況を示している。②重量ベースでみた価格の分布。代表値は「重量中央値」であり、参考値として「第1四分位値」「第3四分位値」「刈込み平均値」を算定。③収集した取引価格データ（単価・重量）を単価の低いものから順に並べ替えた上で取引重量を累積し、総取引重量のちょうど50%に位置する単価を「重量中央値」。最低価格から順に累積したデータを4等分し、最初の境界に位置する単価を「第1四分位値」3番目の境界に位置する単価を「第3四分位値」という。「刈込み平均値」は、第1四分位と第3四分位の間の重量ベースの平均値（加重平均値）。

食肉業界紙のパイオニア

# 食肉通信の 専門紙・誌と本

食肉業界のあらゆる情報を迅速・正確に伝えるべく、日刊、週刊、月刊の3紙を定期発行。食肉関連の情報を網羅した週刊「食肉通信」、日々のニュース速報に特化した日刊「食肉速報」、市場分析などテーマ性の高い情報を詳細に掘り下げる月刊「ミート・ジャーナル」を基幹媒体として、食肉に関する専門書籍を多数発行しております。

### ■業界動向がデータでわかる 数字でみる食肉産業

生産から流通、販売まで関連分野のデータを集積。B5判。年1回発行。

B5判 472頁 4,191円(送料別)

### ■畜産・食肉業界の動向大全 日本食肉年鑑

現状分析と将来の展望、戦略構築に必携の一冊。関係名簿、畜産・食肉需給の動向、食肉流通の動向、食肉加工品関係の売れ筋動向なども収録。年1回発行。

B5判 500頁 14,850円(送料別)

### ◆食肉販売&経営関連

## 銘柄牛肉 ガイドブック

隔年刊。全国の銘柄牛肉の品種、飼養管理の方法、生産・出荷の実施主体、食肉処理と出荷・販売先、飼養頭数、ブランドの特徴など最新データを満載。

B5判 258頁 定価2,500円(送料別)

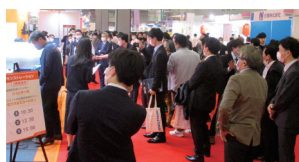
## 銘柄豚肉 ガイドブック

隔年刊。全国の銘柄豚肉の品種、飼養管理の方法、生産・出荷の実施主体、食肉処理と出荷・販売先、飼養頭数、ブランドの特徴、輸出の状況など最新データを満載。

B5判 240頁 定価2,200円(送料別)

### ◆イベント

#### ■国内で唯一、 最大級の食肉総合見本市



## 食肉産業展

食のグローバル化が目覚ましい発展を遂げる中で、和牛に象徴される日本独自の食文化を守り今後の成長を促すため、多彩な素材食品、加工技術、販売手法、管理システムを一堂に集めて提案いたします。

(HP) <https://www.shokuniku-sangyoten.jp/>

お申し込みは電話かFAXで  
お近くの食肉通信社まで

# 株式会社 食肉通信社

■大阪 〒550-0005 大阪市西区西本町3-1-48

TEL 06(6538)5505 FAX 06(6538)5510

■東京 〒101-0021 東京都千代田区外神田2-14-10

TEL 03(6206)0929 FAX 03(6206)0928

■九州 〒812-0029 福岡市博多区古門戸町3-12

TEL 092(271)7816 FAX 092(291)2995

※東京事務所は2025年2月10日より上記の新住所に移転しました。電話・FAX番号も変更となりましたので、宜しくお願致します。

## 週刊 食肉通信



食肉全般の行政、業界ニュースをはじめ、新製品や食肉店経営のページ、量販店・外食、食肉組合、食肉市場などのニュースのほか、週間・月間市況や全国の食肉市場の牛・豚肉相場、食鳥相場など、国内外の生産から商社、卸、小売まで広範な情報を掲載しています。わが国唯一の食肉専門紙。

発行は毎週火曜日、ブランクカット判8~12ページ、価格は年間25,000円(税・送料込)

## 日刊 食肉速報



食肉関連に関する行政、業界の動向をはじめ、国産(牛枝肉・部分肉、豚枝肉・部分肉、プロイラー)と輸入(米国産やカナダ産の牛肉・豚肉、豪州産牛肉など)の相場市況を毎日掲載するとともに、企業情報・企業倒産など日々の業界ニュースをお届けします。

発行は月曜日から金曜日、A4判14ページ、価格は年間82,080円(税・送料込) ※軽減税率対象

## 月刊 ミート・ジャーナル



食肉の流通チャネルが多様化する中で、その時々のもっとも話題性の高いテーマを多角的視野で捉え、現場をレポート・分析。あわせて食肉・食肉製品など総業の製造・流通・販売の現場ですぐに役立つ技術情報などを掲載する月刊専門誌。

発行は毎月月上旬、B5判120~150頁、価格は年間23,100円(税・送料込)

### ◆教材&レポート等

#### ■あなたの常識を強化にする 今さら聞けない肉の常識

平野正男  
鏡見 著

肉はなぜ赤いのか、しゃぶしゃぶがおいしい理由は?など66の常識をわかりやすく解説。

A5判 152頁 定価1,500円(送料別)

#### ■~食肉のプロフェッショナルを育てる~シリーズ 牛枝肉・牛部分肉の見方 牛肉の見方を簡単図解

「牛枝肉、牛部分肉のポイント」について分かりやすくまとめた待望の入門書。

B5判 90頁 定価3,000円(送料別)

#### ■職人の技を次世代へ繋ぐ、保存版 牛枝肉・部分肉の 分割と商品化

カラー写真も豊富で、各種規格、枝肉の分割から商品化までの全てが分かる一冊。

B5判 216頁 定価5,500円(送料別)

#### ■知識を豊かにする 食肉用語事典

平成22年に新改訂した、定評のエンサイクロペディア。新訂正版は3,000語採録。

日本食肉研究会編 A5判 506頁 定価7,000円(送料別)

### ◆ステーションリー

## 食肉手帳 DIARY

毎年発行し好評をいただいている業界人必携の手帳がグレードアップ。機能性、食肉価格などの資料も充実し、日頃の業務をサポートします。名入れも可。

横9.4cm×縦14.5cm 定価990円 ※購入される冊数によって価格は変動します